感動胸に東京入り

政策転換大行進ルポ

（四山支部　福島さん）

石炭政策転換大行進は無事所期の任務を果して十二日帰山したが、前号に引きつづき東京着までの四山支部福島さんの大行進ルポを掲載しました。

雪だるま式に支援

【四日、新潟県直江津市で】十日目の行進で最日本コースの最北端である新潟県の直江津市につきました。

朝、富山駅前での歓送集会のあと九時半すぎの汽車で糸魚川（いとりがわ）駅に向い、駅前で集会をひらきました。ちょうど昼休時間だつたので地区労からたくさんの人々が集まりました。富山から糸魚川までの各駅でもたくさんの仲間から励ましをうけ、大いに力づけられました。

直江津では、五時から市中行進と決起大会をおこないました。今日の大会は朝から降りつづく雨で気がかりになつていたが、これまでの集会のうちで一番多くの人たちが集まりました。

こちらでも三池にたいする関心は深く、石炭政策転換闘争についても私たち行進団が一歩々々東京に近づくにつれて理解支援が雪だるま式につよまつてきています。

今日、八方運搬（四山）の荒尾重満さんのお父さんが死亡されたという不幸な知らせがありましたしかし荒尾さんは大事な行進中だから引き帰るわけにはいかないという強い決心で行進をつづけることにしました。そして、このことは集会でも紹介され「さすがは三池の労働者だ」と評価され、たたえられました。

農民代表も支援へ

【五日、長野県長野市で】新潟の直江津をはなれるとすぐと山岳地帯でした。途中、各市町村で懇宴を行ない、新潟を越えて長野県に入りました。見渡すかぎりリンゴばかりの山を通つて二時半すぎに長野市庁前につきました。そしてただちに対県交渉を行ない、知事、市長も協力することを約束しました。

長野市では、五時すぎから市中デモを行ない、駅前での集会は直江津を上回る動員で盛会でした。そして、農民代表と県評主婦会代表が全面的な協力を誓つてくれ、勇気づけられました。

私たちの行進も日に日に理解が深まつてきています。

ここでも三池の組合歌がうたわれ、こうして三池労組員としての誇りをもつて行進できることをすばらしく思いました。

保守系市長も大会に参加

【六日、山梨県甲府市で】昨日の行進は松本まで予定されていたのですが、善光寺で有名な長野泊りになつたため、今日のコースはいまでのうちで最長のコースとなりました。

八時半長野を出発し十一時半には松本市役所前に着き、すぐ大会と対市交渉にはいり、十二時半には松本市を発ちました。そして、途中諏訪湖のほとりにある岡谷市諏訪市、芳野市をつぎつぎ行進し六時すぎ甲府につきました。それから甲府での大会とデモに参加したのですから、八時すぎまでもかかり、宿舎で入浴と食事をすませて寝潜いたのは九時をすぎるという強行軍でした。

乗物を利用した行進は今日が最後で、いよいよ明日からは徒歩ばかりの行進です。

松本市での大会には保守系の市長も参加して「政転」に協力するという態度を示しました。

山梨県との交渉は、明日の出発前に行なう予定です。

明日からは富士山をながめながらの行進です。

元気に前進します。みなさんとともに。

ズブ濡れで行進

【七日、山梨県富士吉田市で】九時から甲府市で対市交渉をもちました。市長は福岡県の鶴崎知事や細谷大牟田市長らと一緒に中国を訪問されたそうで、その時十分話も聞いており、中国でも三池の英雄的な闘争は大きく評価されているので敬意をもつているときかされられしく思いました。

出発のときもわざわざ激励に来てくれました。

このように、各県市とも協力的なところが多く、心強く思います。昨夜半からどしゃ降りの雨になり、朝九時四十分に山梨市を発ち塩山市につく三時ごろまで雨の行進でした。

塩山市からバスに乗り込み、富士山の登山口の一つである吉田市まで直行しました。途中千四百メートルもある高い峠を通り、しかも雨にぬれた身体だつたのでみんな寒さにふるえるほどでした。

でも、たくましくがんばつています。

運動会も中断して声援

【八日、山梨県大月市で】行進十四日目、八日、富士山麓にある吉田市での行進・集会、都留市での集会を重ねて大月市までやつてきました。

今日は二十数キロの道を約六時間で歩いた程度でした。

行進の途中で気づいたのですがこの地方は、家庭での織物がさかんです。またこの人たちによつてつくられている織物業者の組合が「行進団歓迎」のハリ紙をたくさんはりだしているのが見かけられ勇気づけられました。町の主婦たちも行進団に湯茶の接待をしてくれ、都留市での集会では市長があいさつをおくつてくれました。

小学校の近くを通りかかると運動会の最中だつたが、それを一時中断して、行進団が通つていることをマイクで何度も知らせ、先生や生徒父兄や見物人まで、手を振り旗を振つて励ましてくれました

明日はいよいよ東京入りです。都内の八王子まで行進をつづける予定です。

三池の二十一名はもちろんみんな元気でがんばつています。

郵便局で送料のカンパ

【九日、東京都八王子で】十五日目。九時半大月市を出発したのですが、二時間ほど行進したところで、朝からうす降りだつた天気がくずれ、本降りの雨となりました。荷物も先に送り込んでしまつていたので雨具もなく、みんな寒さにふるえました。そこで大事をとつて行進を断念し、塩沢駅から八王子まで汽車で行くことにしました。

大月市を出発するとき、三井鉱山のことを書いた「倒刊金鶏」が目にとまりました。この本は、大牟田、荒尾などではあまり見かけなかつたようですから、何かの参考にでもなればと思い別便で送ることにしました。

郵便局でこのことを話すと、非常に好意をもつて接してくれ、送料をカンパしてくれました。

暖いカンパの数々

【十日、立川で】みなさん元気ですか。十日には台風二十四号が関東に上陸するという情報で行進もできないのではないかと心配していましたが、昨夜ちょつとした風雨があつた程度で、行進に大きな影響はなくてさいわいでした。

朝九時半に八王子市役所で集会をひらいたあと、隊をさらに二つに分けて行動しました。私たちは八王子を出発して、さくらフイルム工場前を通り、団地の多い地区から日鉱町、立川と前進してきています。

立川では、八王子で分れた隊と合流して集会をもつたのですが、私たちの隊が約二時間ほど早くついたので、数名づつに分れて駅前などでビラ配りをしました。

夜、宿舎に東京常駐の北岡さん酒池さんがみえて、みんなでいろいろ語し合いました。

今日の行進の途中、ひとりのおばあさんが私たち行進団に「一枚づつですが食べて下さい」といつて、たくさんのせんべいを届けてくれました。また、中年の主婦が「気持だけでも受取つて下さい」と二百円をカンパしてくれました

このような、各地でのたくさんの人々の協力と励ましに力づけられて、元気でがんばつています。

全駐労の離職者が場茶の接待

【十一日、調布で】行進十七日目。立川駅前での集会のあと、二隊に分れて行動しました。私たちは国立町から府中市をまわり調布市まで前進してきました。

三多摩地区では革新政党が熱いらしく各市町で石炭政策転換に積極的に取組むと同時に、離炭地の離職者受入れについても、議会にはかり、住宅から就職にいたるまで努力することを約束してくれました。

行進途中、全駐労の離職者二十三名の出発で自動車修理工場をやつている人たちが、とくに私たち行進団につよい関心をよせられ茶菓子、湯茶の接待をしてくれました。

この付近の道路は自動車ばかりで、歩いている者は一人も見かけられません。警官も行進団につききりで、横断するときは行進が通過してしまうまで車の方をストップさせるので、またたく間に数百メートルもの列ができるのです。

いよいよ十二日、明日は最後の目的地である日比谷公園に入ります。そして中央大集会のあと都内を夜間行進します。未来をてらす灯、キャンプランプをあかあかとてらし、堂々と行進します。

大きな感動で日比谷会場へ

【十二日、新宿で】大牟田を発つて十八日間、全日程を終えて今日午後五時ちょうど、元気いつぱい日比谷に着きました。

すべてテレビやラジオなどでよく分つているでしょうが、行進団が日比谷に到着したときは、東京地区労の仲間をはじめ全国の労働者代表の熱烈な大歓迎をうけました。私たちはその中を堂々と行進・入場し、大きな感動をおぼえました。

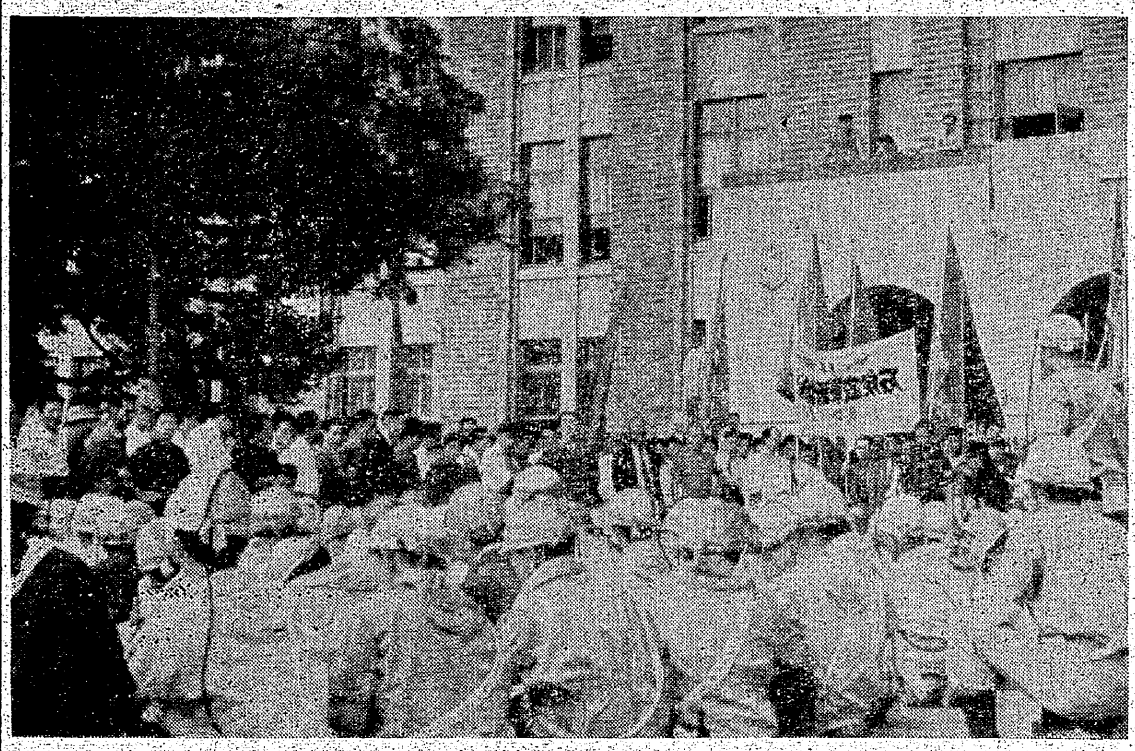
思えば、十八日間の行進は辛苦の連続でしたが、その苦難をのりこえて行進をつづけたよろこびは一生忘れられぬ大きなものです。それは私の胸深く刻み込まれています。

この喜びは、三池の労働者としての誇りをもち、全国の仲間たちの暖かく力づよい力に支え励まされながら、仲間を愛切ることなくきびしいが正しい道をすすみ、たたかつている者だけが知る最大のよろこびです。

日比谷到着と同時にみなさまの暖かい激電を受けました。

ありがとうございました。

十七日には離京しますので、詳しくは三池で。



沿道で集会、対県市交渉をつづけた（山陰班、四山支部　荒尾重満氏　提供）

天高し

宮浦支部　高椋龍生

世に八方塞（ふさ）がりはなし　天高し　龍生

おとうさんは、あと一年あまりで停年という俳句の大先輩から―「私は人間として、詩人として、自分の信条を今更曲げることはどうあつも許せない。ましてソントクどころではない。自分が俳句なり人生なりをとおして長年求めて来た真理の探究とは、そんな安易な妥協ではない――。あなたの〝三本線〟は、感銘を受けて読んだ。俳句会に今もあなたと香月さんがいることが心強い――」という意味の真情こめた一本のハガキを受け取つた。

そのあと偶然にも、ある集会でばつたり出会い夜道を歩きながら「私は、〝アカハタ〟も読みますが、私は決して共産主義者ではありません。労働者としていくぶんかその中から消化して身につけたいと思うのがあつたら身につけたいと思うだけです」と語つてくれ、別れ際手を取らんばかりして

「人間として、石炭の苦しみにある人を裏切り、自分だけがのほほんとしていい子になるなどとそんな虫のよいことは、どうしても悲しみや苦しみのどん底にある同志に対して相済まなくて出来ない。私は、者骨にむち打つて最後の最後まで頑張ります」と、語気を強め、私へ励ましの積りで言つてくれた言葉が今も耳から離れない。

力よ！

また、小さい、小学生のお前などに、むづかしいことを言つても分らないだろう。でも、おとうさんがどんな生き方をしているかを一番よく知つてくれているのはお前だちだけだ！

お前たちにいろいろと不自由や苦労をかけることが多いが、そのことが長い先では、お前たちの真の意味でのしあわせにつながつていることを信じている。

人生は、長い目でながめて見なければその人が幸せであつたか不幸せであつたか、正しかつたか正しくなかつたかは分らないものである。

でも言えることは、人を泣かせ人を悲しませてまで自分だけがいい目をみようとするそのことだけで決してその人は幸せであつたとは言い切れない。実際に、その人が、そういつた立場や境遇におかれたとき、その人はきつとそのことを知り、悲歎の涙にくれそのことを悔るであろう。

それよりも、今のいま、その人の苦しみや悲しみを知り、より多くの人に分ち合い助け合い励まし合うことが如何に尊く賢明な道であるかを私は思うのである。

力よ！

私は、いまお前たちから、よいおとうさん、おかあさんと言つてもらいたい。でも、私たちは考え直すのである。

今、自分たちのやつていることが正しければ、長いあなたたちの人生のいつの日か、今の私たちの切実な愛情が分つてもらえると信じているからである。

力よ！

私たちもゆたかな生活を望んでいる。しかし、人の生血まですすつて豊かになろうとは思わない。

同じ働く者で、会社の政策とはいいながら労働者同士の差別待遇によつて、自分だけのふところをこやしている労働者が一方ではあるという事実がある。近代化された今の時代に、と嘆くだろうが。実際、かなしいかな公然と行なわれているのだよ。

おかしいとは思わないかね。このことが資本主義のカラクリだよ

物を多く生産すれば、それだけ国民の生活がゆたかになる理屈だが、実際は、より多く働かされてあげくの果ては職場を追い出されていく人が出てくる始末で、働く人たちの労働条件はむしろ悪化こそすれ、ひとつも良くはならないことになつているのだよ。

今の世の中は力によつて正しくないことでも正当化されようとしている。

政治力が教育にまで介入し、行き詰つた政治は権力を利用して世のすべてを左右しようとしている

力よ！

お前の育児日記に私はかつてこう書いている。

命名について

〝天は自から助くる者を助く〟とか〝独立自尊〟とかいう言葉もある。

結局頼るものは自分であり、自分の力だけが自分の問題を解決する。これからの世の中は実力の世の中である。この名はあまり平凡すぎて物足りないかも知れないが力こそ、すべてを解決し誇導する鍵である。

あくまで他力本願ではならないあくまで、正しく、明るく、実しく、自己の力に生きてくれ。

（昭和二十六年三月十四日）

あなたの命名の力という字は純なもので、しかも正義の力という意味もふくんでいる。

世の権力を挫けさす力である。

世に八方塞がりはなし天高し　龍生

の一句は、私の人生の試練と体験の中から滲み出て来たものである

力よ！

しつかり勉強するんだよ。

人を押てのけてまで出世するためではない。よりよい実力を身につけて、学問の中に人間らしい血の通つた肉付けをし、丸味のある角のとれた心を養い、自分だけの殻に閉じこもらずに、悲しみにつけ喜びにつけて人と交りを深め、勇気と力を共に与え合い、かたい友情と契りの中に節操を守り、金や物に屈せぬ不屈の魂を身につけて、ひとすじの人間愛に生きるためにー―。どんなに道がけわしくとも、人の甘言にのせられずどんなに疲れたときでも心を許さず。

一歩一歩自分の力でかつ歩せよ

同志はつねに手を取り合い、敬え合い、励まし合い、慰め合い、いたわり合い、心をつなぎ合つて生きることだ。

眼前が真暗になつた時、天を仰ぐがよい、天は常に開いている。

星は青い。

そこに希望の太陽が輝やいている。

（S36・10・17）